

会議録

1. 附属機関の名称 : 犬山城調査整備委員会

2. 開催日時 : 令和4年8月23日(火) 午後1時30分から午後3時00分まで

3. 開催場所 : 犬山市役所 5階 501・502 会議室

4. 出席した者の氏名

(1) 委員 麓和善、白水正、高瀬要一、西形達明

(2) 執行機関 滝教育長、中村教育部長

歴史まちづくり課 加藤課長、渡邊課長補佐、中野主事、大前主事補

(3) その他 助言者 愛知県埋蔵文化財センター 洲寄和宏

公益財団法人犬山城白帝文庫 成瀬淳子、宮田昭男

支援業者 株式会社 文化財保存計画協会

5. 報告事項

(1) 令和3年度犬山城関連主要事業実績について

6. 議題

(1) 令和4年度 犬山城関連主要事業(案)について

(2) 七曲石垣修理について

7. 会議要旨

(1) 令和3年度犬山城関連主要事業実績について

(事務局より資料に基づき、犬山城の保存活用に関する事業及び犬山城の管理に関する事業について報告)

委員①:資料の綴じ方について。通し番号(ページ番号)を付けて、きちんと綴じてもらえると分かりやすい。

事務局:今後そのようにする。

委員②:針綱神社南東側の石垣はまだ工事に入っていないか?今年度中に工事に入ることでもいい

か？

事務局:9/5～16の間で工事に入る予定である。

委員③:大手門の調査。「戦国時代の堀」という報告があったが、戦国時代という時代の幅が広い。犬山城の創建に関わるため、もう少し詳細な時期は分かるか？

事務局:作られた年代はまだわかっていないが、埋められた年代は分かっており、16世紀後半から17世紀初頭にかけてだろうと推測できる。遺物も多数出土しており、陶磁器、白磁等が出ている。

委員③:それらの遺物から(堀が)作られた年代は分からないか？

事務局:16世紀前半に属する輸入陶磁も出土しているが、堀が作られた年代は分からない。

委員長:出土した遺物については専門家に鑑定してもらっているか？

事務局:愛知県埋蔵文化財センターや瀬戸市埋蔵文化財センターに鑑定依頼している。

委員長:台帳について。石垣台帳がどのような構成になっているかが分からない。トータルとして「石垣カルテ」と呼ばれているが、それがどのような資料から構成されているか。石垣カルテの全体像が分からないし、どのような分類で作られているか。カルテを作る前にきちんと整理をしておかないと、これからデータが増えていく段階で、同じ石垣について多種多様な情報が存在することになる。多種多様なデータ、情報間の相互の関係が分からないと、膨大な数の面が存在することになり、それらの把握が難しくなる。石垣カルテは調査に伴い情報量が増えていき、また更新されていくものであるため、どのように作成していくかについての方針が必要。作成前にその方針を立てることが重要である。

事務局:近世からある石垣(509と510)については3次元計測やオルソ画像作成等を行うなど詳細な調査を行っており、近代以降に築かれた石垣(114と115)については簡易調査を行っている。

委員長:事務局で整理して、どのようなまとめ方をすることも含めて検討して欲しい。これから調査に伴い、データ量が増えていった場合、全体と細部の関係性がうまく把握できないと困る。

委員②:石垣についてどのような調査をしたのかという一覧があると分かりやすい。

委員長:この石垣台帳の目録はあるか？通常は目録を見れば必要な情報がすべて出てくるものである。そのような整理はできているか？

事務局:ご指摘いただいているレベルには至っていないかもしれないが、確認する。どの石垣について、どのようなデータがあるかが一覧で分かるようなものということで良いか？

委員長:データが出た段階で整理しようとする大変である。目録がなく、個々のデータばかりになると使えない。

(1) 令和4年度 犬山城関連主要事業(案)について

(事務局より資料に基づき、犬山城関連主要事業(案)の内容について説明)

委員②:これだけの量の石垣の調査を今年度行うということでよいか？何をやるのか？

事務局:3次元計測をし、写真撮影を行う。場所的にレーザー機器による計測が難しいため、オルソ画像を作成し、立面図を作成する予定である。附番図も作成する。一石、一石の目視による状況把握も行う。現況調査と図面作成である。

委員①:目視は誰がやるのか？専門の人がいるのか？

事務局:目視は委託業者が行い、専門の調査員が行う。しかし、年代の把握までは難しいと思われる。

委員②:調査予定の石垣の分量はかなりあると思われる。もう調査は開始されているのか?

事務局:測量はすでに開始している。

委員長:石垣調査の各年の計画はよいが、全体計画はどのようになっているか?

事務局:令和6年度まで調査を行う予定である。対象は近世以前のものだけに限らず、近代、現代のものまで含めて行う。近代、現代のものは簡易調査になる。

委員長:簡易調査と詳細調査の違いは何か?

事務局:簡易調査は先に説明した4ページ程度のものである。詳細調査は3次元計測の後、オルソ画像を作成し、図化する。また石一点一点の状況把握、附番図作成を行う。将来的な復元整備に向けたものが詳細調査にあたる。

委員長:石垣台帳そのものは、簡易調査と詳細調査も同じ内容か?

事務局:「様式台帳 01」については同じである。

委員長:「様式台帳 01」のフォーマットのもは、近世以前の石垣についても、近代以降の石垣についても作成するという理解でよいか?台帳とカルテは同じと捉えてよいか?

事務局:同じものとして認識している。

委員長:すべての石垣台帳は、すべての石垣を同じ視点で分析しているということでしょうか?築造年代ごとに調査の視点や内容が違っていると、分析がシステムティックに行われているように思えない。誰が行っても同じ結果が得られ、また追跡ができるような形になっていないと後になって困ると思う。後続の人が見たときに、なぜあちらの石垣は簡易な調査結果で、こちらの石垣は詳細な調査結果になっているかということがわかるような形でないで困る。事業として発注する前に、調査の方針を明確にする必要があると思う。

助言者:石垣カルテについては、スケジュール、調査項目、調査内容、どのようなフォーマットでまとめるかな等をきちんと整理して、先生方にご提示し、助言を仰いだ方がよい。

委員長:どこでも文化庁の作成した手引きに従い、石垣カルテを作成しているが、手引きのとおりやるのではなく、各城郭に合わせて改良していく必要がある。

委員長:防火対策だけで別の委員会組織を立ち上げて協議する必要があると考える。森山先生や委員長と相談して決めるというような内容ではない。きちんと検討する場が必要である。

事務局:本委員会できちんと諮っていきたいと考えている。設備の設置にあたり、改修の必要性、部材への影響も考えていかななくてはならないと考える。

委員長:防災設備の設置には運用面の検討もする必要がある。また内部の展示計画も検討する必要がある。例えば、展示物が可燃性のもの、不燃性のものでは対処の仕方が変わってくる。総合的な対策が必要である。

(2) 七曲石垣修理について

事務局:当面の修理方法(応急修理)としてどのように行っていくべきか。根本的な修理方法に関する方向性について、本整備計画の中で検討するということがよいか伺いたい。

委員長:近世以前の絵図では石垣がなかった部分を将来的にどう整備していくかについては複雑な要素がたくさんある。近代以降に神社が城内に建てられたこともあり、城郭全体を近世以前の状態に戻

すということは犬山城ではできない。現在の状態を将来に向けて、どのような形に整備していくのかという全体像があり、それに従い、崩落した近代の石垣をどう整備するかということである。根本修理については今後検討していくとして、当面の応急修理をどうするか。

委員②: 抜けたのは何石ぐらいか？

事務局: 抜けたのは 11 石程度である。

委員②: 天端の浮いている石をなんとかする必要がある。ネット状の袋に碎石を入れ、50センチぐらいの大きさのものを穴が空いたところに積んでいくというやり方が良いと考える。浮いている石をいったん外し、碎石土嚢と呼んでいるが、それを積み、その上にもう一度積み直す方法である。

事務局: 該当箇所の石垣は近代以降のものであるので、必ずしも現状に復する必要はないと考える。いったん外した石は戻した方が良いか？一番上の石を外したままにし、碎石土嚢を積むというやり方でもよいか？

委員②: それでも良い。

委員長: それは石工の仕事か？

委員②: 市の登録業者である土木業者で良い。できるだけ早い時期にやった方が良い。もう少し大規模なものではあるが、兵庫県佐用町にある利神城(山城)で斜面風化を止めるために碎石土嚢で仮復旧した事例がある。碎石の大きさ等の詳細については佐用町に聞いてみるとよい。

助言者: 整備基本計画について。第1章～第3章までは保存活用計画と重複するような内容である。現時点でどれくらい進んでいるのか？

事務局: 書き始めている。

助言者: 来年度の「第6章 整備基本計画」の中に「6-5 修景及び植栽に関する計画」があるが、国宝犬山城天守、史跡犬山城跡であると同時に名勝木曾川の中で景観を構成する重要な要素でもある。本計画の「第4章 史跡の現状と整備に向けた課題」の中の「4-6 周辺環境との連携のための整備に向けた現状と課題」において再確認し、また植栽計画、樹木伐採計画等とも含めて検討されることになると思う。景観面での配慮も是非してもらいたい。

助言者: 石垣の被災前と被災後の写真を提示した方がわかりやすいし、よりご指導をいただきやすかったのではないと思う。今後の資料の作り方について工夫をして欲しい。

委員長: 整備基本計画と先行して行った保存活用計画との関係性がわかるような計画づくりをして欲しい。両計画では共通する内容も多々存在するため、両計画で共通する項目、新たに整備基本計画で検討する項目が分かるようにして欲しい。

事務局: そのようにさせていただく。

○その他

※第2回委員会は 12 月頃を予定。詳細な日程については後日調整する。